# Cisco DNA CenterのMaglevユーザパスワードのリセット

# 内容

はじめに

<u>背景説明</u>

前提条件

<u>要件</u>

使用するコンポーネント

ステップ1: ライブCDからの起動

<u>手順2:必要なパーティションをマウントする</u>

使用例1: Maglevアカウントのロック解除

<u>手順1: maglevユーザーがロック解除されていることを確認します</u>

ステップ2:失敗したカウントのリセット

<u>使用例2:Maglevユーザパスワードのリセット</u>

ステップ1:Maglevユーザパスワードをリセットする

<u>ステップ2:Cisco DNA Center環境で正常にリブートする</u>

<u>ステップ3:Cisco DNA Center CLIからMaglevユーザパスワードを更新する</u>

<u>ステップバイステップのビデオガイド</u>

## はじめに

このドキュメントでは、Maglevユーザのパスワードをロック解除またはリセットする方法について説明します。

# 背景説明

Maglevアカウントがロックアウトされている場合は、ログインしてロックを解除することはできません。Maglevユーザのパスワードのロックを解除またはリセットするには、イメージをCisco IMC vKVMにマウントする必要があります。これにより、シェルにアクセスし、ユーザやパスワードをリセットできます。

# 前提条件

#### 要件

- Ubuntu 16.04以降のISOイメージは<u>https://ubuntu.com/download/desktop</u>からダウンロード する必要があります。Cisco Catalyst Centerと同じバージョンの18.04をお勧めします。
- ローカルシステムにISOをダウンロードしたら、次にISOをCisco Integrated Management

Controller(CIMC)KVMにマウントする必要があります。

- KVMにISOをマウントしたら、ISOからブートする必要があります。
- Ubuntuにアクセスできたら、rootディレクトリとvarディレクトリをシステムにマウントします。
- rootディレクトリとvarディレクトリをマウントした後、Maglevユーザー・アカウントのロックを解除して変更できます。
- 最後に、アプライアンスをリブートし、Maglevでログインできることを確認し、設定ウィザードでパスワードをリセットします。

### 使用するコンポーネント

この操作はUbuntu 18.04イメージで実行されました。イメージが異なると、時刻と結果も異なります。

一部の環境では、Ubuntuデスクトップに到達するのに最大2時間かかることが確認されています。

この操作は、Ubuntuデスクトップバージョンに限定されるものではありません。必要なのは、シェルへのアクセスだけです。シェルアクセスを提供するUbuntuイメージは、この操作に対して動作します。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。



注:DR環境でも同じ手順を使用できます。ただし、次の点に注意してください。

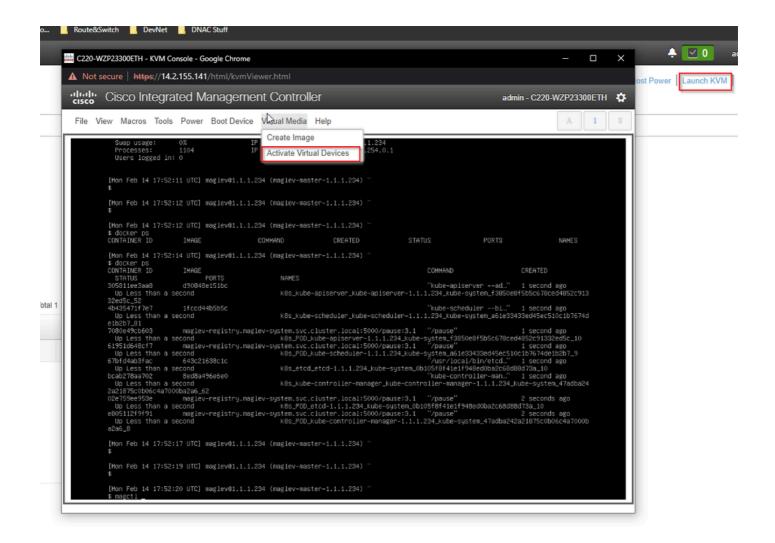
\*\*\*パスワードの回復/リセット方法を試行する前に、ディザスタリカバリが一時停止状態であることを確認します\*\*\*

1+1+1のDR導入では、このプロセスが完了する間、対応するサイトがダウンします。

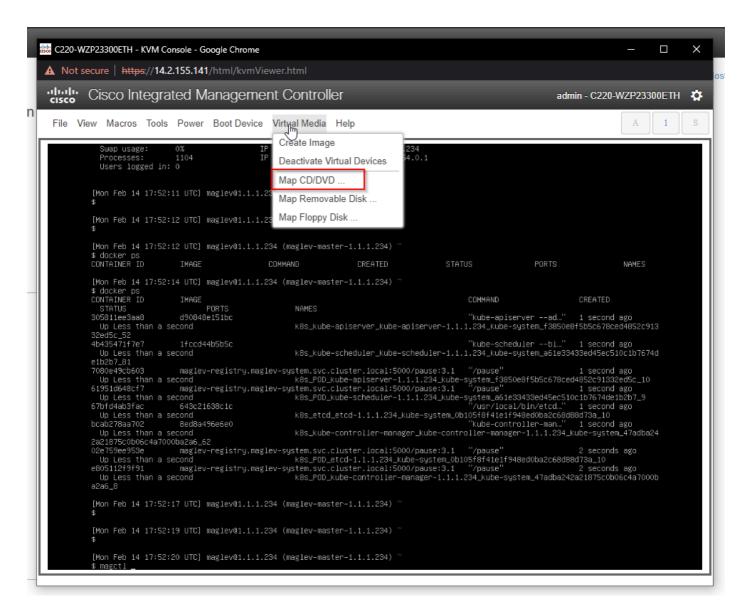
3+3+3では、3つすべてのノードでパスワードを更新する場合は、1回に1つのノードを実行して、他の2つのノードが使用可能であることを確認し、不要なDRフェールオーバーを回避します。

# ステップ1:ライブCDからの起動

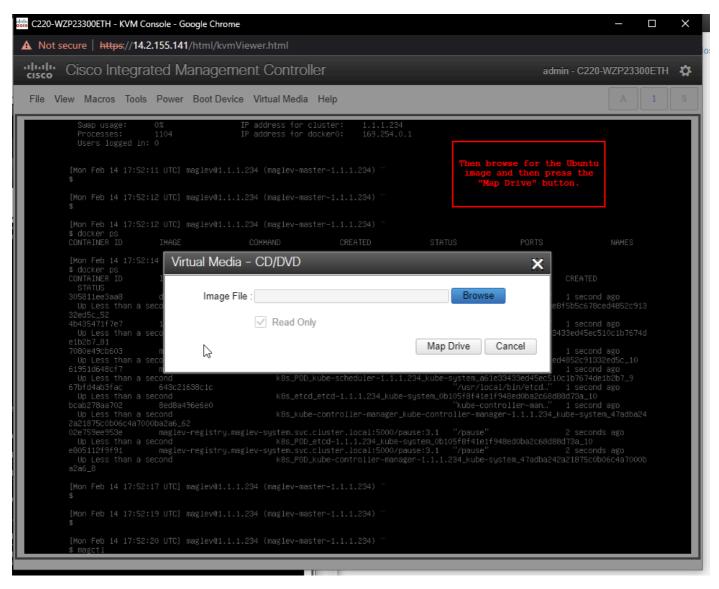
Cisco IMC GUIにログインし、Launch KVMを選択してから、Virtual Media > Activate Devicesの順に選択します。



次に、Map CD/DVDの順に選択します。

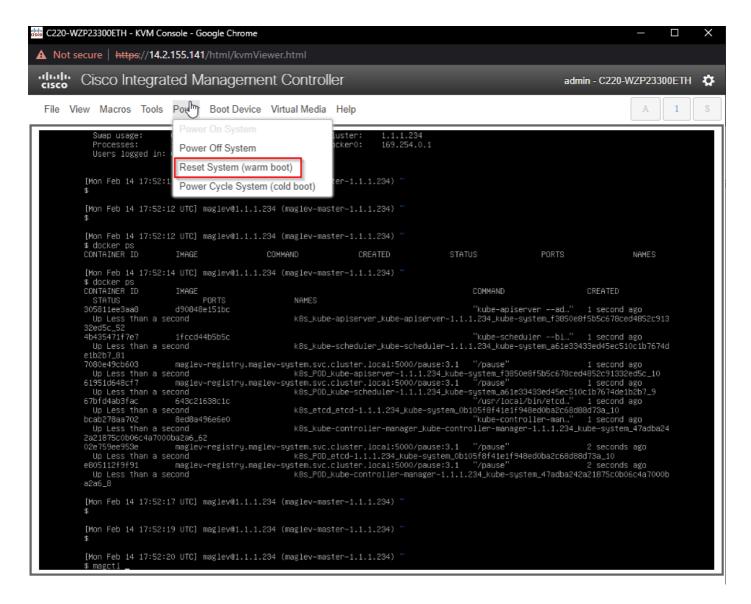


その後、Browseを選択し、ローカルシステムにダウンロードしたUbuntu ISOイメージを選択します。Ubuntuイメージを選択したら、Map Driveボタンを選択します。





次に、電源>システムのリセット(ウォームブート)を行ってアプライアンスの電源を再投入します。



システムのリブートが完了したら、Ciscoロゴが表示されたらF6キーを押します。

A 1

# ıı|ııı|ıı cısco

Copyright (c) 2019 Cisco Systems, Inc.

Press <F2> BIOS Setup : <F6> Boot Menu : <F7> Diagnostics Press <F8> CIMC Setup : <F12> Network Boot Bios Version : C480M5.4.0.4b.0.0407190307

Platform ID : C480M5

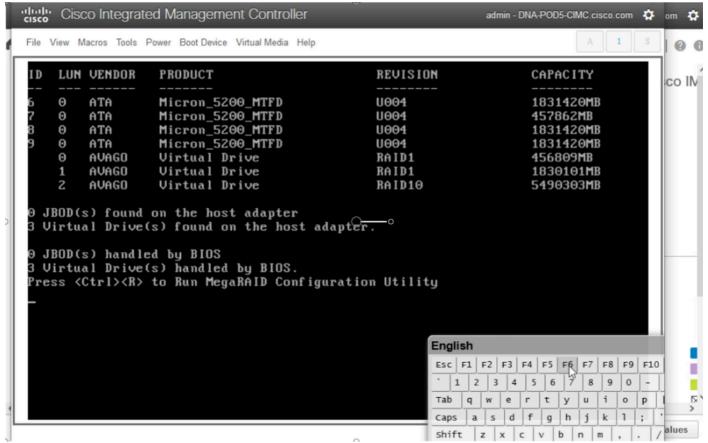
Processor(s) Intel(R) Xeon(R) Platinum 8176 CPU @ 2.10GHz
Total Memory = 768 GB Effective Memory = 768 GB
Memory Operating Speed 2666 Mhz
M.2 SWRAID configuration is not detected. Switching to AHCI mode.

Cisco IMC IPv4 Address : 10.207.165.50 Cisco IMC MAC Address : 5C:71:0D:24:B6:44

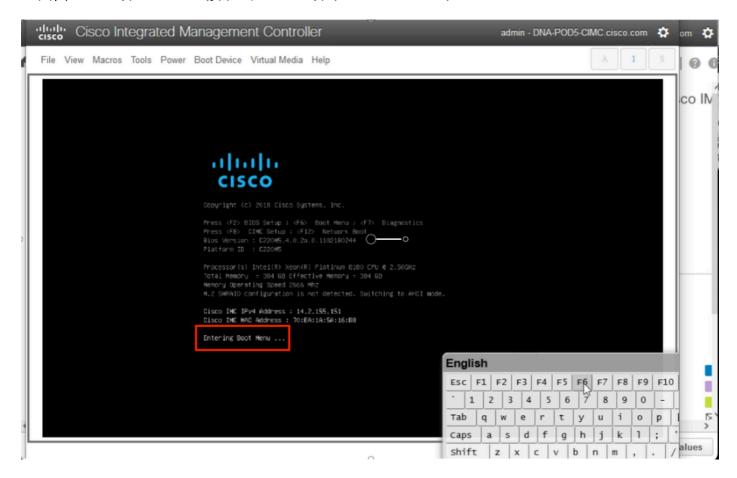
Entering Boot Menu ...

A2

#### 次のような画面が表示されるため、正しく動作していないように見える場合があります。



しかし、2番目の画面が表示され、ブートメニューに入っていることがわかります。シスコの最初の画面でF6を押し忘れた場合は、ここで押すことができます

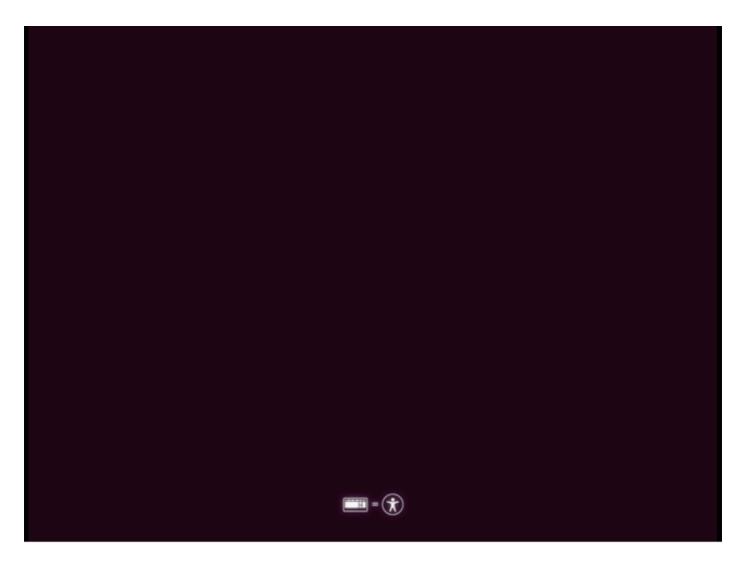


ブートメニューがポップアップ表示されたら、Cisco vKVM-Mapped vDVD1.24というオプションを選択します。これにより、アプライアンスは以前に選択したマッピング済みUbuntuイメージから起動します。

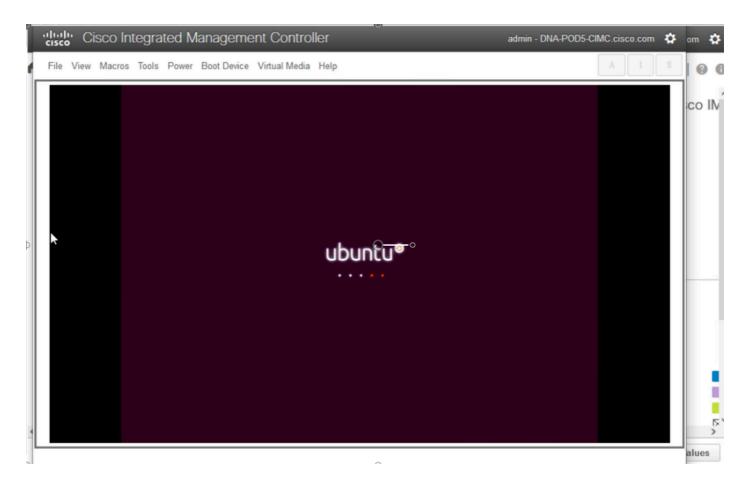
```
Please select boot device:
(Bus 33 Dev 00)PCI RAID Adapter
CiscoVD Hypervisor
SanDisk
UEFI: Built-in EFI Shell
IBA XE (X550) Slot 3500 v2413
IBA XE (X550) Slot 3501 v2413
Cisco vKVM–Mapped vDVD1.24
Cisco vKVM-Mapped vHDD1.24
Cisco vKVM-Mapped vFDD1.24
Cisco CIMC-Mapped vDVD1.24
Cisco CIMC-Mapped vHDD1.24
Cisco Flexutil DVD 1 1.24
    ↑ and ↓ to move selection
   ENTER to select boot device
    ESC to boot using defaults
```

\*\*\*注:スクリーンショットは、Ubuntuデスクトップに到達するのにかかる時間を示しています。 0.\*\*\*

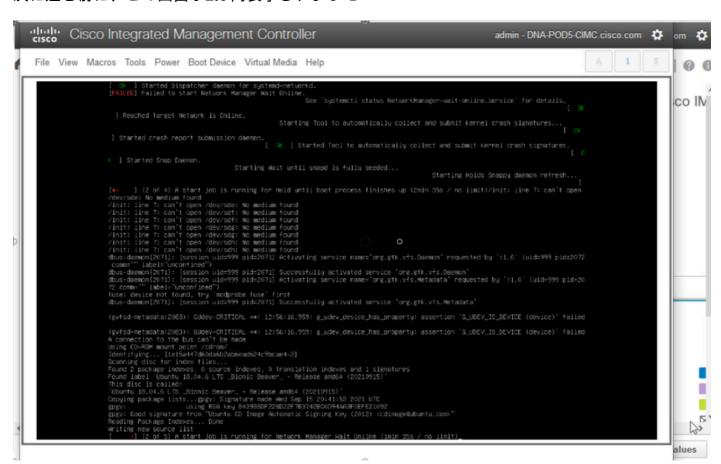
これは、最初に表示される画面です。何も起こっていないように見えるかもしれませんが、ただ待ちます。ラボでは、この画面が40秒間表示されます



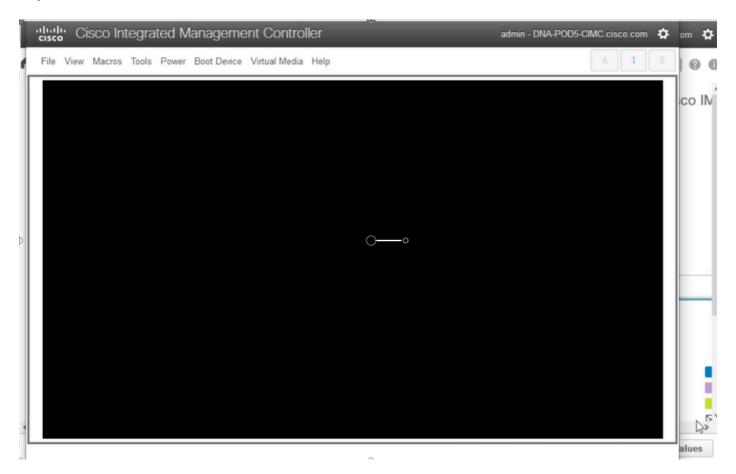
その後、Ubuntuロード画面が表示されるまで、約30秒間は画面が完全に黒くなりました。この画面は、移動する前に5分強この画面に表示されていましたが、導入によって時間が異なる可能性があります。



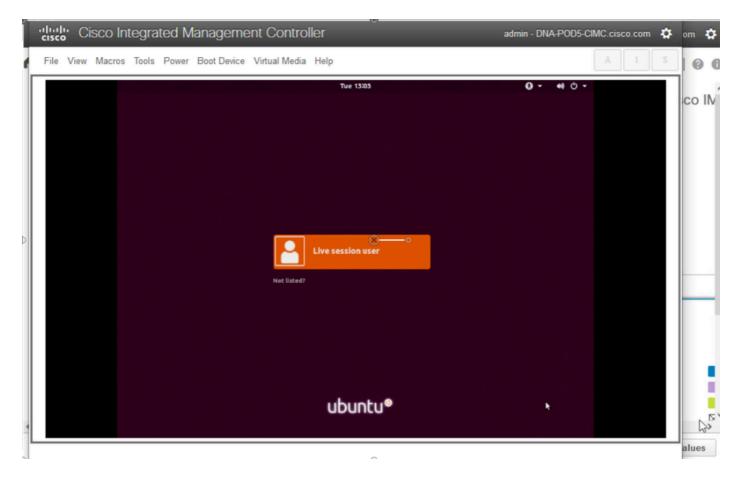
次に、問題が発生したように見える画面が表示されますが、これは正常な動作です。ラボでは、次に進む前に、この画面が2分間表示されました



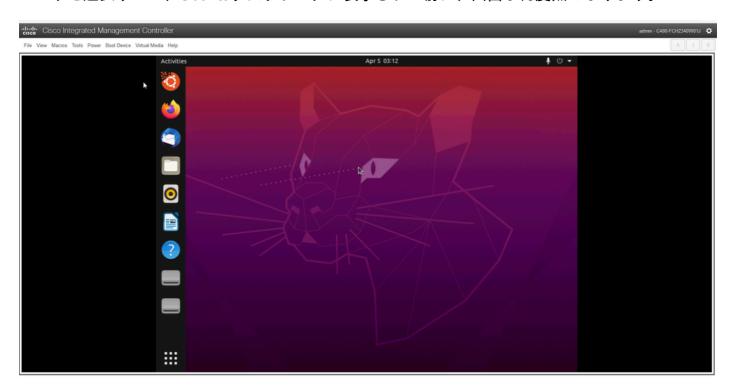
画面は黒い画面に約3分間戻り、上の画面は数分間再び点滅し、さらに2分間黒い画面に戻りました。



次に、ライブセッションユーザを選択するオプションが表示されます。「Ubuntuデスクトップを試す」オプションが表示されたら、そのオプションを選択します。このユーザーの続行を歓迎します。



ユーザを選択すると、Ubuntuデスクトップに表示される前に、画面が再度黒くなります。



\*\*\*注意:一部の環境では、この段階まで最大2時間かかることが確認されています\*\*\*

手順2:必要なパーティションをマウントする

UbuntuデスクトップGUI環境にアクセスしたら、ターミナルアプリケーションを開いて次の手順

#### を実行する必要があります

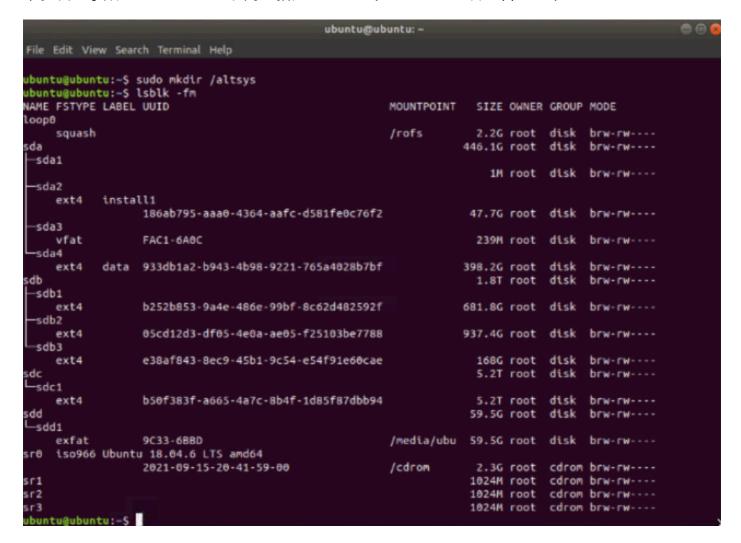
- 一時的なマウントポイントを作成します。
- rootパーティションとvarパーティションをシステムにマウントします。
- 仮想ファイル・システムを一時的なマウント・ポイントにマウントします。

まず、次のコマンドを使用して、一時マウントポイントを作成します。

#### <#root>

sudo mkdir /altsys

次に、マウントするルートパーティションとvarパーティションを見つける必要があります。Isblk-fmコマンドを使用して、"/"(ルート)および"/var"にマウントするパーティションを検索できます。次の手順でmountコマンド用に指定したパーティションを書き留めます



/varの場合は、9.5Gまたは168Gのパーティションを探します。この場合はsdb3です。

	ubuntu@u	buntu: ~					00
File Edit View S	earch Terminal Help						
hustuguhustu -	\$ sudo mkdir /altsys						
buntu@ubuntu:~							
AME FSTYPE LAB		MOUNTPOINT	SIZE	OWNER	GROUP	MODE	
oop0							
squash		/rofs	2.2G	root	disk	brw-rw	
da			446.1G	root	disk	brw-rw	
-sda1							
			1M	root	disk	prm-rm	
-sda2	1.447						
ext4 ins	tall1				44 -1-	Acres and	
ada2	186ab795-aaa0-4364-aafc-d581fe0c76f	ž	47.7G	root	disk	brw-rw	
−sda3 ∨fat	FAC1-6A0C		2208	root	dieb	brw-rw	
-sda4	FACI-DAUC		239H	1001	utsk	DIW-IW	
ext4 dat	a 933db1a2-b943-4b98-9221-765a4028b7b	F	398.2G	reet	disk	brw-rw	
db	33300102 3313 1030 3221 10301023010			root		brw-rw	
-sdb1							
ext4	b252b853-9a4e-486e-99bf-8c62d482592	r	681.8G	root	disk	brw-rw	
-sdb2							
ext4	05cd12d3-df05-4e0a-ae05-f25103be778	3	937.4G	root	disk	brw-rw	
−sdb3 <del>←</del>							
ext4	e38af843-8ec9-45b1-9c54-e54f91e60ca	e e		root		prm-rm	
dc			5.2T	root	disk	prm-rm	
-sdc1	brospore accr and object adorsorable				da ala	have and	
ext4 dd	b50f383f-a665-4a7c-8b4f-1d85f87dbb9	•		root		brw-rw	
-sdd1			39.30	1001	ULSK	DI W-I W	
exfat	9C33-6BBD	/media/ubu	59.50	root	disk	brw-rw	
	ntu 18.04.6 LTS amd64	,,					
	2021-09-15-20-41-59-00	/cdrom	2.3G	root	cdrom	brw-rw	
r1			1024M	root	cdrom	brw-rw	
r2			1024M	root	cdrom	brw-rw	
г3	200		1824M	root	cdrom	brw-rw	
buntu@ubuntu:-	\$						

/ (root)の場合は、28.66G または47.7Gのパーティションを探します。この例では、sda2です

```
ubuntu@ubuntu: ~
File Edit View Search Terminal Help
ubuntu@ubuntu:~$ sudo mkdir /altsys
ubuntu@ubuntu:~$ lsblk -fm
                                                       MOUNTPOINT
NAME FSTYPE LABEL UUID
                                                                    SIZE OWNER GROUP MODE
Loop0
    squash
                                                       /rofs
                                                                    2.2G root disk brw-rw----
sda
                                                                  446.1G root disk brw-rw----
-sda1
                                                                      1M root disk brw-rw----
 sda2
           install1
    ext4
                 186ab795-aaa0-4364-aafc-d581fe0c76f2
                                                                 47.7G root disk brw-rw----
 sda3
    vfat
                 FAC1-6A0C
                                                                    239M root disk brw-rw----
 sda4
                                                                  398.2G root disk brw-rw----
           data 933db1a2-b943-4b98-9221-765a4828b7bf
    ext4
db
                                                                    1.8T root disk brw-rw----
 -sdb1
                 b252b853-9a4e-486e-99bf-8c62d482592f
                                                                  681.8G root disk brw-rw----
    ext4
 -sdb2
                                                                  937.4G root disk brw-rw----
                 05cd12d3-df05-4e0a-ae05-f25103be7788
    ext4
 sdb3
                 e38af843-8ec9-45b1-9c54-e54f91e60cae
                                                                              dlsk
    ext4
                                                                    168G root
                                                                                     brw-rw----
                                                                    5.2T root
                                                                               disk
                                                                                     brw-rw----
 -sdc1
    ext4
                 b50f383f-a665-4a7c-8b4f-1d85f87dbb94
                                                                    5.2T root disk
                                                                                     brw-rw----
dd
                                                                   59.5G root disk
                                                                                     brw-rw----
 -sdd1
    exfat
                 9C33-6BBD
                                                       /media/ubu 59.5G root disk brw-rw----
    iso966 Ubuntu 18.04.6 LTS amd64
                 2021-09-15-20-41-59-00
                                                       /cdrom
                                                                    2.3G root
                                                                              cdrom brw-rw----
                                                                   1024M root
                                                                               cdrom brw-rw----
                                                                   1024M root
r2
                                                                               cdrom brw-rw----
                                                                   1024M root
                                                                               cdrom brw-rw----
```

varパーティションとrootパーティションを特定したら、それらをマウントします。

#### <#root>

```
sudo mount /dev/sda2 /altsys

# use the disk with up to 5 or 6 partitions
sudo mount /dev/sdb3 /altsys/var

# use the disk with up to 5 or 6 partitions
```

rootとvarがマウントされたら、ファイルシステムをマウントします。

#### <#root>

```
sudo mount --bind /proc /altsys/proc
sudo mount --bind /dev /altsys/dev
sudo mount --bind /sys /altsys/sys
```

パスワードを変更するか、Maglevアカウントのロックを解除する前の最後の手順は、一時マウント環境に変更することです。

<#root>

sudo chroot /altsys

使用例1: Maglevアカウントのロック解除

手順1: maglevユーザーがロック解除されていることを確認します

<#root>

grep maglev /etc/shadow

<#root>

maglev:

パスワードハッシュの前に感嘆符(!)があるかどうかを確認します。存在する場合は、アカウントがロックされていることを示します。コマンドを入力してユーザのロックを解除します。

次のコマンドでmaglevユーザのロックを解除します。

<#root>

usermod -U maglev

## ステップ2:失敗したカウントのリセット

/etc/shadowファイル内で、ハッシュの前にエスカレーションマークが表示されていない場合は、ログイン失敗の制限を超えています。失敗したログイン試行をリセットするには、次の手順を使用します。

maglevユーザの失敗したログイン試行を検索します。

<#root>

sudo pam\_tally2 -u maglev

Login Failures Latest failure From maglev 454 11/25/20 20:24:05 x.x.x.x

ここに示すように、ログインの試行回数はデフォルトの6回よりも多くなっています。 これにより、障害数が6未満に減少するまで、ユーザはログインできなくなります。次のコマンドを使用して、ログイン障害カウントをリセットできます。

#### <#root>

sudo pam\_tally2 -r -u maglev

カウンタがリセットされたことを確認できます。

#### <#root>

sudo pam\_tally2 -u maglev

Login Failures Latest failure From maglev 0

# 使用例2:Maglevユーザパスワードのリセット

ステップ1:Maglevユーザパスワードをリセットする

#### <#root>

#

passwd maglev

Enter new UNIX password: #Enter in the desired password

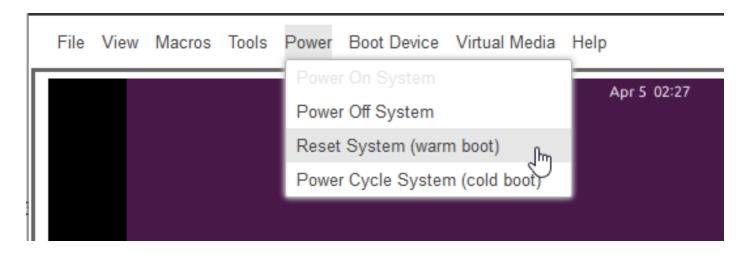
Retype new UNIX password: #Re-enter the same password previously applied

Password has been already used.

passwd: password updated successfully #Indicates that the password was successfully changed

## ステップ2:Cisco DNA Center環境で正常にリブートする

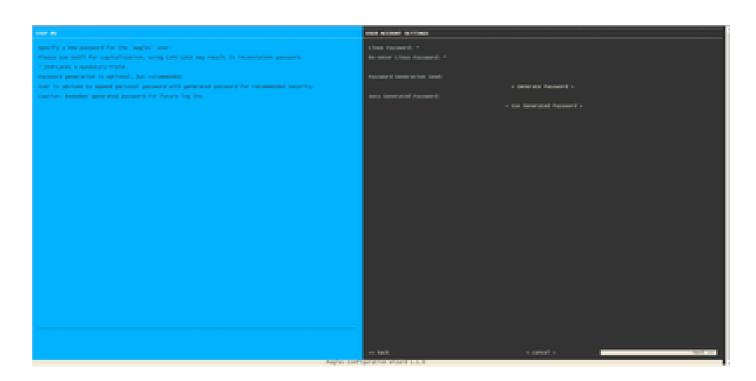
KVMウィンドウでPowerをクリックしてから、Reset System (warm boot)をクリックします。これにより、システムがリブートし、RAIDコントローラを使用してブートするため、Cisco DNA Centerソフトウェアが起動します。



ステップ3:Cisco DNA Center CLIからMaglevユーザパスワードを更新する

Cisco DNA Centerソフトウェアが起動し、CLIにアクセスできるようになったら、sudo maglev-config updateコマンドを使用してMaglevパスワードを変更する必要があります。この手順は、変更がシステム全体に影響を与えることを確認するために必要です。

構成ウィザードが起動したら、ウィザードを完全に移動して、ステップ6でMaglevパスワードを 設定できる画面を表示する必要があります。



Linux PasswordとRe-enter Linux Passwordの両方のフィールドにパスワードを設定したら、

nextを選択してウィザードを完了します。ウィザードが設定のプッシュを完了すると、パスワードが正常に変更されます。新しいSSHセッションを作成するか、CLIでコマンドsudo -iを入力して、パスワードが変更されたことをテストできます。

# ステップバイステップのビデオガイド

以下のリンクから、このワークフローに関する詳細なビデオにアクセスしてください。

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版(リンクからアクセス可能)もあわせて参照することを推奨します。